

入 選

きれいな霞ヶ浦へ・・・

筑西市立下館中学校

一年 塩 田 あすみ

私は、普段使っている水道水について考えてみました。

私達は、いつも当たり前のように、きれいな水を日常で使っています。でも、その水が私達の所に届くまで、たくさんの方がいます。私は小学生の時に、浄水場見学へ行った事を思い出し、もう一度くわしく調べてみることにしました。

私の住む地域の水は、大きな管を通して、関域にある浄水場に霞ヶ浦から運ばれてきます。浄水場に運ばれた水は、水の量を測ったり、水の流れを安定させる着水井へ行きます。次に、水の中の細かな砂やゴミをはずみやすくする薬を入れる薬品混和池、フロック形成池に行きます。その後、細かな砂や

ゴミをはずめるちんでん池へ行き、最後に、水を砂などでこしてきれいにするろ過池へ行った後、配水池、配水ポンプ、配水管を通して私達に届きます。初めは、においもきつく茶色ににごっていた水も、最後には、とう明でにおいもなくなっていました。おそろおそろ試飲すると、いつもじゃ口から流れ出てくる水と同じ味がして、ほっとしたことを覚えています。

私が霞ヶ浦から筑西市に水が来ていると知ったのは、母から東日本大震災の時の話をしてもらった時です。東日本大震災の時に、霞ヶ浦から筑西市まで通っている管が、と中で破れつしてしまい、五日間断水したそうです。そこで初めて、私達の飲んでいく水が霞ヶ浦の水だということを知りました。

私は、茨城県に住んでも霞ヶ浦に行ったことがなく、霞ヶ浦のことをほとんど知りませんでした。そこで、霞ヶ浦についても調べてみることにしました。霞ヶ浦では、湖面をわたる風を受け、真っ白な帆をいっぱい張って進む帆引き船体験ができます。また、ワカサギ、コイ、ハゼ、ブルーギル、ブラッ

クバスが生息するため、つりも楽しめます。

ですが、水質が悪いことがずっと問題になっていくようになります。霞ヶ浦で汚だくが目立つようになったのは、一九七〇年代ごろからで、養殖コイの大量死が起こったり、アオコが大量に発生したりしたそうです。その後、取水していた地域の上水にカビ臭が生じました。一九八〇年代に入り「湖沼法」が出来、色々な改善策が行われているようですが、なかなか水質は良くならないようです。

その原因は、私達の家庭から出た下水や私達の生活を健康的・快適にしてくれるための農排水、工業排水だそうです。その水を飲んでいると思うと、「気持ち悪い」「そんな水を飲んだり使っていたの」と思う人もきつと思います。でもそれは、私達自身が便利さにあまえて霞ヶ浦を変えてしまったからなのです。そのことを、忘れてはいけないと思います。

水は限りある大切な資源です。自分達が使った水は、また自分達にもどってきます。

だから私達は、日常生活の中で自分に出来る事

を意識して行っていかなければなりません。まずは、お皿など洗う物をする時に、油よごれはいらぬ紙などで先にふき取って油を流さないようにすることや、シャンプー、リンスを必要最低限にとどめるなど、出来る事を少しずつでもいいのでやっていく事です。そして、昔のようなきれいな湖を取りもどしたいと思います。

今は、コロナウイルスで外出が出来なくなっていますが、外出が出来なくなったなら霞ヶ浦へ行って自分の目で見てみたいと思います。